

## 令和4年度 第2回北九州市発達障害者支援地域協議会

- 1 会議名 令和4年度 第2回北九州市発達障害者支援地域協議会
- 2 開催日時 令和5年1月17日（火）19:00～20:45
- 3 開催場所 ウェルとばた12階会議室
- 4 出席者
  - (1) 構成員（オンライン参加含める。敬称略）  
中村貴志、長森健、渡辺恭子、倉光晃子、尾首雅亮、今本繁、黒木八恵子、大坪巧弥、北野里香、田中惟子、伊野憲治、藤井敬太郎、國友信次（計13名）
  - (2) 事務局  
障害福祉部長 吉村知泰  
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課長（発達障害担当課長）角田禎子  
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 事業調整係長 西島秀幸
- 5 会議次第
  - 【1 開会】
  - 【2 議事】
    - (1) 報告事項
      - ①北九州市発達障害者支援センター「つばさ」の活動報告
      - ②シンポジウムの開催について
    - (2) 協議事項  
発達障害をめぐる相談体制の整備について
  - 【3 閉会】
- 6 会議経過・意見交換
  - (1) 報告事項
    - ①北九州市発達障害者支援センター「つばさ」の活動報告
      - ・資料をもとに、北九州市発達障害者支援センター「つばさ」相談員 黒木構成員より、相談状況および事業実施状況に関するご説明をいただいた。
      - ・今後の課題…機関コンサルの強化、行動障害に対する支援、人材育成など
  - (構成員)
    - ・スタッフ11名の職種について
  - (構成員)
    - ・社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師、臨床発達心理士、保育士など。一人で複数の資格を持つものもいる。
  - (構成員)
    - ・つばさの状況は、全国と比較してどうなのか。市独自のものがあるか。相談内容はどうか。

**(構成員)**

- ・政令指定都市なので充実している方である。また、学校の教員が1名派遣されているということが大変めずらしく、うらやましいと言われる。相談内容については、直接支援が多く、あまりシステムティックになっていないと思う。

**(構成員)**

- ・今回、活用内容や数値をいただいて思ったのが、業務内容を整理し、どこに集中してやっていくのか見直しや連携が必要だと思う。

②シンポジウムの開催について

- ・「発達障害支援を考えるシンポジウム」の開催について、事務局より説明を行った。

日時…令和5年3月18日(土)13時～16時15分

場所…北九州国際会議場メインホール

構成員より、実施について了承いただく。今後、ちらし等完成させ広報していく。

なお、オンデマンド配信について検討してはとの意見あり、検討を行う。

(2) 協議事項

発達障害をめぐる相談体制の整備について

**(事務局)**

- ・昨年度実施した専門部会で導き出した課題や方向性について、さらに協議し、整理したい。
- ・今回は、本協議会の構成員より、それぞれの発達障害に関する業務等を説明していただき、各機関の機能等の理解を協議会全体で深めた上で、課題解決に向けた議論や意見交換を行いたい。

**(北九州市立総合療育センター訓練科長 尾首構成員)**

- ・資料をもとに、北九州市立総合医療センターの相談概要のご説明をいただいた。
- ・課題…・成長やライフステージの変化によって生じる課題も変化する。引継ぎや個別支援計画の更新が必要。
  - ・地域での支援力の向上、人材育成が必要。
  - ・巡回相談の活用、市内サービスの一元化、地域の中の支援力の向上が必要。
  - ・療育センターだけでは問題は解決しない。地域の皆さんとしっかり手を取りあい、療育センターを十分活用していただき、補完し合いながら組織で対応する必要がある。

**(北九州障害者しごとサポートセンター所長 大坪構成員)**

- ・パンフレットをもとに、北九州障害者しごとサポートセンターの業務のご説明をいただいた。
- ・令和4年12月末時点の総相談支援件数は7470件。うち、発達障害のみの診断(精神保健福祉手帳をもたない方)が341件。

(令和3年度は273件、令和2年度は59件であったため、確実に増えてきている状況)
- ・就労に関しては企業側の理解の促進が非常に大切。
- ・知識と経験を持ち、コーディネートができる人材の養成が重要。

**(北九州市教育委員会特別支援教育相談センター所長 北野構成員)**

- ・パンフレットをもとに、北九州市教育委員会特別支援教育相談センターの業務のご説明をいただいた。
- ・各相談事業について近年増加傾向である。
  - ・令和4年度現時点で、早期巡回相談は70件、早期教育相談は151件。
  - ・個別の教育支援計画の作成の手伝いについては、昨年度の相談は156件で、うち106件の作成を手伝った。
  - ・教育相談事業(通常学級に在籍する児童・生徒・保護者・教職員を支援する相談事業)は、令和4年度現時点で547件の申し込みがあった。
  - ・就学相談事業は、昨年度より200件程増加し、今年度は既に1420件の申し込みがあった。
  - ・通級相談は、令和4年度現時点で513件の申し込みがあった。
- ・課題…
  - ・本センターの周知、認知度の向上(特に保護者に対して)
  - ・相談内容の多様化と、それに対応する専門的な助言や指導の向上

**(北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー 田中構成員)**

- ・資料をもとに、スクールソーシャルワーカー活用事業についてご説明をいただいた。
- ・課題…
  - ・医療機関や関係機関への繋ぎや連携が必要なケースが多々あるが、初診までに半年以上待つ状況や、地域によっては自宅近くに関係機関がなかったり、空きがない等、サービスの利用が難しい場合がある。

**【質疑応答】**

**(構成員)**

- ・協議会の在り方について。何を協議するのか不明確で、結局各機関からの報告で終わってしまっている。ポイントを絞るべき。

**(構成員)**

- ・前回の会議で意見交換したことに基づいた更なる議論を期待していた。

**(構成員)**

- ・本市の相談体制で不足している点や、会から見て強化してほしい点等はあるか。

**(構成員)**

- ・コロナの影響で会の運営を十分できているため特にならない。強いて言うなら、不登校に関する相談が増えてきており、上手く繋がりたいと思っている。

**(構成員)**

- ・療育センターで、主に発達障害の外来支援をしているスタッフは何名か。  
また、発達障害の専門的な知識やスキルを持ったスタッフは何名か。

**(構成員)**

- ・西部分所は、PT・OT・ST心理士が各3名ずつ、保育士・指導員が12名在籍している。  
本体センターは、児童発達支援センターに従事する保育士・指導員が13名、心理士は12名、STは7名、PTは10名、OTは10名在籍している。

**(構成員)**

- ・発達障害の方たち向けに、ソーシャルスキルトレーニングのクラスを作り、チームで関わる等のプログラムを療育センター内で作る動きはあるか。

**(構成員)**

- ・現時点で、そのようなプログラムは用意していない。

**(構成員)**

- ・各構成員から提出された資料で、発達障害の方たちのライフステージに沿った専門的な支援の資源はあるということは非常によくわかった。やはり、専門部会の目指すもの（重層的な展開図）が立ち上がっていくのが良いと考えながら拝聴した。縦の繋がり、途中で情報や支援が途絶えてしまうときに、どのようにコーディネートするのか、また横の繋がり、教育と福祉が繋がっていく時、コーディネートをどう展開していくのか、またコーディネーター間のガイドラインを作っていくのかということについて、今後ディスカッションできると、この先の展開が見えてくるのではないかと思う。

**(構成員)**

- ・コーディネートや繋ぎについて、具体的なディスカッションすべきところのご指摘に対し、その通りだと思う。

**(構成員)**

- ・療育センターの成り立ちからいえば、肢体不自由等の支援から始まっているため、そこに特化されていることはわかるが、現状は発達障害の方が圧倒的に増えており、そちらに対する対応や仕組みが不十分である。中長期的に新しい仕組みを作っていかなければ、支援がうまく流れていかないと思う。それぞれの機関で頑張っているが、やはり限られた中でどのように資源を配分したり、相談の仕組みを作るかということを含めて、市全体でぜひモデルのようなものを作っていただきたい。

**(構成員)**

- ・療育センターに関し、マンパワーが足りず、初診までの待ち時間が長いということについて、センターに再三申し入れを行っている。一般の方々にもご理解いただきたい。

**(構成員)**

- ・行政として、着手できることや難しいこと等を整理しながら、来年度に向けて、今後どのようにすすめるのか、方向性を伺いたい。

**(事務局)**

- ・市としては、情報の共有化や、引継ぎの問題、ネットワーク構築、コーディネーター間の繋がりに関して、一貫性を持った仕組みを作るということを目指している。  
例えば情報発信についても、情報共有のシートを作るのか、冊子を作るのか、ポイントをかいつまんだものを作成するのか、発達障害について知識が豊富な方向けに作るのか、一般市民向けのものを作るのか等、そういうところから、もう少し構成員の皆さまとご議論できればと考えている。
- ・長時間にわたり、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。  
以上で令和4年度第2回北九州市発達障害者支援地域協議会を閉会いたします。